

〈日本 SPF 豚研究会誌〉

「All about SWINE」投稿のお願い

SPF 豚の普及に役立つ調査・研究論文および防疫、飼養、流通、消費等に関する解説・資料等の原稿を募集しております。下記要領にご留意の上、ご投稿下さい。

1. 原稿は原則としてワープロを使用してA4用紙に22字×33行、横書きで作成して下さい。手書きの場合は、原稿用紙を送付しますのでご請求下さい。
2. 原稿の1枚目には表題、投稿者名、所属機関名（郵便番号および住所）を記して下さい。2枚目以降の記述形式は特に定めませんが、資料等を引用した場合は末尾に「参考資料」または「引用文献」の項目を設けて下さい。
3. 表は原則として縦罫線を使用せず簡潔なものとし、また図はそのまま印刷が可能なように白色紙または方眼紙に黒色で記入して下さい。写真は原寸印刷が可能なように原則として横7cm程度、縦7cm以下として下さい。
4. 原稿の送付先は当分の間「〒305-0856 つくば市観音台3-1-5 独立行政法人・動物衛生研究所 小林秀樹」までお願いします。

〔編集後記〕

日本人は農耕民族といわれる。農耕は作物を育て、大地の恵みから得られたものを糧にしているが、同時に一部から次世代のための種子を収穫する。人々の作業は内容も労働時間もみな同じである。一方、西洋人は狩猟民族が多く、「収穫」だけを行う。その「獲」のためには様々な特技を持ったヒト達がそれぞれに得意な分野を受けもっており、それが社会的分業へと発展し、産業革命までもたらしたことは事実だろう。どちらの民族も「生」と「命」に対する執着は同じだと思う。しかし、考え方、宗教や文化といったものはまるで

違ふかたちで表現されるに至った。

養豚業は豚肉を生産する産業である。肉という農耕民族には無縁に感じるが、養豚はれっきとした農耕民族の内容である。我々の遠い祖先から受け継いだノウハウは多少のかたちを変えながらも養豚の発展に役立っているはずである。日の浅い西洋の農耕には負けられないのである。今後、日本の文化の一部として根付いた養豚は幾多の障害を乗り越えて行かねばならないが、先人の経験と実績を「温故」とし、西洋のよい部分や独自の試行を「知新」とすれば一層の発展が望めると思う。

何となく国粋主義者っぽくなってしまった。確かに愛国心はヒト一番強いかもしれないが、新教育基本法で強要されるような国家や政府に対する愛国心とは違う。今の自分が存在する理由や、先人が築きあげてきた様々な文化を想うと必然的に湧き起こる気持ちである。愛国心は個人の人生観から生まれた結果のひとつであって、教育で植え付けられては末恐ろしい。ましてそれを評価しようなんてもってのほかである。

こんな訳の分からない文章を書いている私は…、まだまだ甘い。 (小林秀樹)

「All About Swine」

第30号 2007年2月発行 定価1,500円  
 発行者 岩村祥吉  
 編集者 小林秀樹  
 発行所 日本SPF豚研究会  
 〒305-0856  
 茨城県つくば市観音台3-1-5  
 動物衛生研究所  
 事務局 (株)伊藤忠飼料研究所  
 予防衛生チーム内  
 〒325-0103  
 栃木県黒磯市青木919  
 Tel: 0287(64)3652  
 Fax: 0287(63)8384